

# NSR250R(K) 追補

## PGM-CDI II

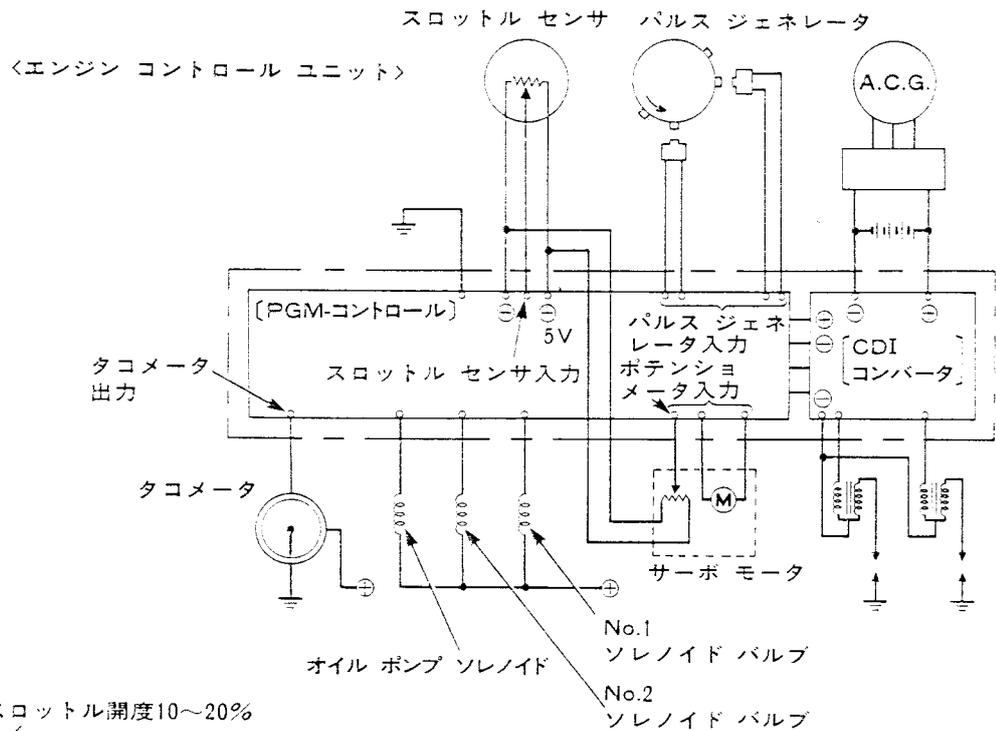
PGM-CDI IIには、進角補正領域を広げると同時に、前後のシリンダ毎に独立した点火時期調整特性を持たせている。No.1・2パルスジェネレータのハルス信号がエンジン回転数として、スロットルセンサの出力電圧がスロットル開度として、それぞれPGMコントロール部のCPUプログラム・マップに入力される。

CPUプログラム・マップは、フロントシリンダ、リヤシリンダそれぞれに独立した、最適な点火時期を演算し、CDIコンバータを駆動させスパークプラグを点火させる。

例えば、スロットル開度が5%以下、エンジン回転数が1,000~1,800rpmの間にはフロントシリンダとリヤシリンダは別々の進角特性を持たせてエンジンの要求する点火時期に近づけることが可能となった。これにより、アイドリングの安定性が向上している。

エンジン回転数全域の進角特性についても、プログラム・マップの内容が変更され、スロットル開度とエンジン回転数をより細分化して入力し、エンジンの要求する点火時期に対応することが出来るようになっている。このため、アクセルレスポンスをさらに向上させることが可能となった。

例えば、同じ回転数においてもスロットル開度が30%と50%の場合、それぞれのスロットル開度に応じた点火時期に調整することが可能になった。



〈点火時期特性〉

